

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 5 日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21730417

研究課題名（和文）ドイツ緑の党の再検討－保守的な地域におけるオルタナティブな環境運動の成功－

研究課題名（英文）Rethinking of the German Green Party:

A success of alternative environmental movement in conservative area

研究代表者

保坂 稔 (HOSAKA MINORU)

長崎大学・大学院水産・環境科学総合研究科・准教授

研究者番号：80448498

研究成果の概要（和文）：

バーデン・ヴュルテンベルク州はベルリンやハンブルクと比べ保守的な地域として有名であり、「保守の牙城」とされてきた。しかしながら、緑の党が成功している地域とされていた。本研究は、保守的な地域における緑の党を再検討することを目的とする。シュトゥットガルトを中心としたシュヴァーベン地方では、「シュトゥットガルト 21」計画に対する反対運動を契機として、緑の党が躍進した。検討の結果、緑の運動の背景として、「根気強く取り組み発明する」「考える伝統」「価値的保守」があることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The State Baden-Württemberg is estimated as moderate or conservative, while Berlin or Hamburg is as progressive. In Baden-Württemberg, it is assumed that the Green Party has been successful. This research aims to rethinking of the Green Party. The Region of Stuttgart is called 'Schwaben'. In Schwaben, there has been almost no large-scale demonstration until now. However, the large-scale and continuous demonstration arose, since the big development project 'Stuttgart21' was announced from the government party and so on. And the green party has expanded. It became clear that the 'Schwabisch' feature of 'Tüftler und Erfinder', 'Denk Tradition', and 'Wert Konservative' is mentioned as a frame of green movement.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学、環境・公害

キーワード：環境社会学、環境運動、緑の党

## 1. 研究開始当初の背景

環境先進国ドイツの旗手とされる緑の党のなかでも、バーデン・ヴュルテンベルク州（人口約 1000 万、以下BW州と略）緑の党の独自性が指摘されてきた。BW州はドイツ南西部に位置する旧西ドイツの豊かな州で、ダイムラー社、ポルシェ社、ボッシュ社などが本社を置いている。BW州は 1952 年に、ヴュルテンベルク州（シュトゥットガルトなど）、バーデン州（フライブルクなど）、ホーヘンツォルレン州（シグマリンゲンなど）が合併してできた。このうち、シュトゥットガルト（人口約 60 万）を中心とした地域を、シュヴァーベン地方という。シュトゥットガルトは、BW州の州都である。

BW州はベルリンやハンブルクと比べ保守的な地域として有名であり、政権与党はCDU（キリスト教民主同盟）が戦後長らく独占し「保守の牙城」とされてきた。州首相が CDU から一貫して輩出されてきたのは、BW州だけである。オールタナティブ政党としての緑の党であるが、保守色の濃いBW州で2番目に議会進出した。BW州は保守的な州とされるが、緑の運動が成功しているのである。

保守色の濃いBW州において、緑の党を特徴づけている存在に人智学派が指摘される。人智学は、シュタイナー（1861-1925）による一種の宗教で、日本ではシュタイナー学校で有名である。環境問題との関連では、オールタナティブな有機農園「デメタ(demeter)」を生み出した。緑の党を研究しているU・リンゼは、人智学が敬虔主義から派生した宗教であると指摘した上で、敬虔主義こそBW州緑の党の特徴の一因であると論じている。BW州緑の党は左右の対立がなく、選挙の得票率もドイツの中でトップクラスであり、穏健モデルの成功例とされており、着目する意義がある。

## 2. 研究の目的

BW州緑の党成功の背景として、人智学や敬虔主義などさまざまな要因が論じられてきたが、これらの分析は当事者の視点を必ずしも踏まえておらず、これまで申請者が接触した党员の見解は大きく異なる。

申請者は、これまでのBW州緑の党党员に対するインタビュー調査で、人智学といった宗教的理念よりもインパクトある論点を見出した。具体的にBW州緑の党员は、同州にドイツ最古の大学があることやヘーゲルら

大思想家の出身地であることを例とし、BW州の人は考えることが得意であるという「考える伝統」を運動の成功要因として言及する。そして「考える伝統」は、人智学（及び人智学の有機農園「デメタ」）や自治組織「コミューン」の発展を促進し、人智学やコミューンは緑の党成功に貢献しているという知見を申請者は得ているが、インタビュー数が少なく、一般化にはいたっていない。

本研究は、BW州緑の党の成功要因と問題点を明らかにし、日本におけるオールタナティブな環境運動成功のための知見を得ることを目的とする。

## 3. 研究の方法

環境先進国ドイツの中で大きな役割を果たしているBW州緑の党の成功要因について、リンゼによる理念の観点からの緑の党分析を発展させ、これまで申請者が得た文化的視点（具体的には宗教的視点や地域文化的視点）を中心に、インタビュー調査を交えて検討した。1年目（H21年度）は文献研究を中心に検討を加え、インタビュー調査を実施した（BW州緑の党関係者他 12 名）。

2年目（H22年度）は、1年目の成果を踏まえ、緑の党州議会関係者および市議会関係者 17 名にインタビュー調査を実施した。

3年目（H23年度）は、緑の党州議会関係者および市議会関係者 10 名にインタビュー調査を実施した。同州緑の党の躍進要因の一つには、S21 反対運動が挙げられるため、緑の党州議会関係者および市議会関係者に加え、S21 反対運動関係者に対してもインタビュー調査を実施した。

## 4. 研究成果

シュヴァーベン地方には、「根気よく取り組み発明する」といったことわざに象徴される地域的特徴があることが判明した。このことわざは、同州が歴史的に資源がないため、発明に取り組んで地域的发展を目指すことを意味している。このため、新しいアイデアを受容する地域的な素地が歴史的に存在する。ポルシェ社やボッシュ社などは、「根気強く取り組み発明する」を体現している起業の具体例であるという。そして緑の党関係者に対するインタビュー調査の結果、同州の「根気よく取り組み発明する」や「考える伝統」といった地域的

特徴を踏まえて緑の運動を展開していることが判明した。

これまで緑の党の背景としては、敬虔主義や人智学といった観点が紹介されてきたが、これらの指摘は今回インタビュー調査を実施した党関係者からみて不十分な説明であった。「根気よく取り組み発明する」「考える伝統」を、同州緑の党の成功要因として挙げる党関係者がインタビュー調査でみられた。オールタナティブ政党である緑の党がバーデン・ヴュルテンベルク州で成功した背景には、発明を重視するという地域の特徴があることが明らかになった。

さらに、BW州緑の党には、「価値的保守」(Wert Konservative)という独自の理念を掲げていることがインタビュー調査で判明した。価値的保守は、たとえば家族の金銭的繁栄を目指す「構造的価値」(Konstruktive Konservative: CDUの理念とされる)と異なり、空間的な幸福を目指すものとされる。

このような地域文化を活かした政治的活動をしていることが、大規模駅開発「シュットットガルト21」(S21)に対する唯一の反対政党となり、市民の支持を得て、2009年の市議会選挙で第1党に躍進する一因となっているといえる。さらに後述するように、2011年3月の州議会選挙では、第1党に躍進することになった。

1994年から計画されているS21は、シュットットガルトの中央駅大規模開発を目指している。S21の主な目的は、第1にホームの地下化、第2に高速鉄道化、第3に中央駅周辺の空き地開発である。第1の地下化については、中央駅がヨーロッパの駅に特徴的な終着型であり、線路容量や速達性の観点から、地下に通過型の駅を作ることが計画されている。高速鉄道化は、ブダペストまでの高速鉄道網が計画されている。これらの工事を行うことで、BW州の交通網整備と産業発展が期待されている。

とはいえ、S21ではホームの地下化にあたり、1920年代に建設された駅舎の一部や駅周辺の公園を破壊する必要がある。また、当初計画で3000億円、現在では4000億円(賛成派試算)とも1兆円(反対派試算)ともいわれる予算も問題とされている。

S21計画に反対する市民は多く、「保守の牙城」の州都シュットットガルトで、2010年には10万人規模のデモや70週を超えるデモがみられるようになった。反対運動では、ベルリンやハンブルクの武装闘争を反

面教師とした、市民による平和的な運動を試みられている。「根気よく取り組み発明する」は、資源がないシュヴァーベン地方に於いて、節約が重要であることも説いており、S21に関わる予算が膨張し、かつ今後確実な金額が分からないということも「根気よく取り組み発明する」の考え方に反しているという。

反対運動の最盛期である2010年には、緑の党は30%前後の支持率を獲得するようになった(シュピーゲル社調査2010年9月:32%、エムニド社調査2010年12月:29%)。

2011年3月27日の州議会選挙の結果は緑の党の得票率が2006年選挙から倍増し(11.7%→24.2%)、23.1%の社会民主党(SPD)と連立政権を樹立し、ドイツで初めて緑の党から州首相を輩出することになった(平成23年5月議会)。

州首相クレッチマン(Winfried Kretschmann)の著書には、「価値的保守」という考え方も触れられている。緑の党関係者に対するインタビューの結果、価値的保守に基づいた緑の党独自の政策として、たとえば「歴史的建造物の保存」、「教育」、「債務を後世に先送りしない財政」があることが明らかになった。そして、「歴史的建造物の保存」の一つに、シュットットガルト中央駅があり、また大規模な財政支出を伴うS21計画は、債務の観点からも「価値的保守」に相容れないことが判明した。

以上のように、S21反対運動を交えて、BW州緑の党成功の背景について検討をしてきた。「根気よく取り組み発明する」という精神は、CDUの政策に協力し、異議申し立てのためよりは発展のために役にたってきた。戦後のBW州の政権与党は長らくCDUであり、この政治体制のもとでドイツ随一の豊かな工業州となった。しかしS21反対運動では、「根気よく取り組み発明する」という地域的精神がフレームとなっている。産業発展に貢献してきた地域的精神が、補助金よりも節約という反対運動のフレームとなり、環境保護に結果として貢献するという知見が得られた。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

- ①保坂稔、「大規模駅開発「シュツットガルト21」反対運動のフレーム」『環境社会学研究』17、環境社会学会、166-179、2011 [査読あり]。
- ②保坂稔、佐々木裕、「環境保護行動と子どももの頃における自然体験 — 家族関係の観点から —」『総合環境研究』13(2)、47-54、2011 [査読あり]。

[学会発表] (計 2 件)

- ①保坂稔、「大規模駅開発「シュツットガルト21」反対運動の現在」、第42回環境社会学会大会、2010年12月
- ②保坂稔、「緑の党と人智学」、第39回環境社会学会、名古屋大学、2009年6月。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

保坂 稔 (HOSAKA MINORU)

長崎大学・大学院水産・環境科学総合研究科・准教授

研究者番号：80448498

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：